

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 2月14日

事業所名 Ange

保護者等数(児童数)24名

回収数 23

割合 96%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	22 (96%)			1 (4%)	利用者数が多い時は、リズム等、身体を動かすプログラムはなかなか困難だと思う。	指定基準の倍近くの広さがあり、活動ごとに机や道具を用意し、部屋が広く使えるように工夫しています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	23 (100%)					
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	21 (91%)			2 (9%)		玄関から車椅子で入室できるようにしています。基本、独歩できる方に利用していただいています。
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	23 (100%)					
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	23 (100%)					
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	10 (44%)	5 (22%)	1 (4%)	7 (30%)	平日は放課後からの利用時間を考えると、交流時間の確保はほとんど取れないと思う。お祭り、イベントを可能な土曜日に催す事で、交流機会を持ってみるのも良いかと思う。	交流について、責任の所在や開催場所、また、放課後児童クラブへこのような評価等があることについて周知されておらず難しいところがあります。その中で、今年度は夏祭りにおいて兄弟児やボランティアの生徒、保育園の子ども達と交流を行いました。
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	23 (100%)				ご請求頂いた工作の材料費では全く足りないと思いますので、どうぞ実費でご請求ください。	
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	23 (100%)					
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	23 (100%)					
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	23 (100%)					
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	20 (87%)			3 (13%)		苦情があった場合は個々に対応しております。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	23 (100%)					
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	23 (100%)					
	14	個人情報に十分注意しているか	23 (100%)					
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	22 (96%)			1 (4%)		契約時に提示説明しており、変更があった場合にはその都度内容を共有しております。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	22 (96%)			1 (4%)		契約時にお伝えし、重要事項説明書に記載しております。今年度は第一中学校にご協力いただき、徒歩での防災訓練を行っております。またマニュアルとしてはお渡ししておりませんが、年1回福祉防災士を講師にお招きし防災カフェを行い、あらゆる災害についてお伝えしております。ぜひご参加ください。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	21 (91%)			2 (9%)	・月に一度の利用なのでなかなか場所に慣れるといった所は難しいかもしれませんが、帰宅時はいつも笑顔なので安心してます。 ・行く前はしる場面もありますが、帰って来たら「楽しかった」と言っています。	保護者と連絡を取り、納得してご利用いただいております。
	18	事業所の支援に満足しているか	23 (100%)					

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月14日

事業所名 Ange

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6 (100%)		・活動によって机やマットなどの配置を考えている ・基準一人当たり3㎡以上のところ42㎡を確保している	
	2	職員の配置数は適切である	5(83%)	1(17%)	公園など外出時に、スタッフ不足を感じる時がある	職員確保の為に、求人サイトへの登録を行なっている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6 (100%)		基本、独歩ができる児童に利用をお願いしている。トイレの立ち上がりなどの手すりや小さい児童の便座や、足置き台などは設置している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6 (100%)		・毎日、利用者が来る前にミーティングを行っている ・月に1度スタッフミーティングを行い、行事などの振り返りをしている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6 (100%)		年一回評価表を保護者に周知し回答をいただき、わからない・いいえの項目には返答をしている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6 (100%)		HPのニュース＆トピックス欄に毎年掲載している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5(83%)	1(17%)	2年に一度、外部の専門家を招いて実践報告を行い評価や助言を受け、それを業務改善につなげている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6 (100%)		保護者を交えた研修を年7～8回行い、職員向けの研修も周知して各自参加している	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6 (100%)		年二回の個別面談を行い、保護者の希望や子どもの姿を踏まえて作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6 (100%)		認知検査・発達検査(一部は外部実施)や『階層-段階理論』(田中昌人)など各種ツールや理論を総合的に参照して適応状況を評価している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6 (100%)		各曜日に担当を充て責任をもってプログラムを立案し、担当は担当外の指導員とプログラムの内容を確認したうえで設定している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6 (100%)		利用者の姿を日々指導員内で話し合い、利用者の好みや楽しみに合わせた活動を考えている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6 (100%)		季節ごとの活動をなるべく取り入れている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6 (100%)		集団活動を基本とし、子どもや保護者の希望に応じて個別の活動を取り入れている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6 (100%)		毎日ミーティングを行い、活動・送迎・子どもの様子などについて打ち合わせをしている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6 (100%)		その日の活動や子どもの様子、特記事項を記入しながら活動の改善点や子どもの姿を共有している。また記入したものはいつでも閲覧できるようにしている。その日の活動、子どもの様子、特記事項を記録するファイルがある	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6 (100%)		その日の活動、子どもの様子、特記事項を記録するファイルがある	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6 (100%)		年二回の個別面談の前に子どもの様子を振り返りまとめている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6 (100%)		総則の読み解きを行い、活動している	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6 (100%)		指導員間で話をしたうえでその意見を取りまとめ児発管が参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6 (100%)		毎月の予定の確認に加え、日々の帳票でも急な変更に対しての保護者からの連絡を受け付けている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5(83%)	1(17%)	現在医療的ケアを必要とする子どもはいない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6 (100%)		必要に応じて面談・見学を申し入れたり、申し入れがあった場合は対応している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6 (100%)		サポートブックに関しての保護者研修を元に、協力する旨を周知している。卒業後の進路先からの要望があれば面談をしている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6 (100%)		研修の連絡があった場合には、事業所内で周知している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6 (100%)		夏祭りの行事では近隣の保育園の園児や兄弟児、ボランティアの生徒の参加があった	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5(83%)	1(17%)	豊中市障害児通所支援事業者連絡会(所属済)が参加しているが、直接内容はわからない	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6 (100%)		利用時の帳票でのやり取りや送迎時の話、また必要であれば電話での連絡を行っている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6 (100%)		保護者向けの研修会を年に数回開催している	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6 (100%)		契約前に説明会を設け説明するとともに、不明点がある場合はその都度説明をしている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6 (100%)		日々の帳票でのやり取りや、面談時など適宜行っている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6 (100%)		年7～8回の研修を開催し、保護者の交流の場ともなっている。夏祭りの企画では家族参加も多数あった	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6 (100%)		日々、気兼ねなく話をしてもらえよう、苦情になる前から対応している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6 (100%)		毎月の「ニュースレター」の発行、Facebook、Line等保護者が発信を受けやすいようにしている	
	35	個人情報に十分注意している	6 (100%)		個人情報は個人のファイルにまとめ、鍵付きの棚に収納している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6 (100%)		子どもの発達の知識を研修などで付け、保護者の希望のみに偏らないよう、子どもの発達の視点から必要な力や子どもの望みを伝える様にしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6 (100%)		利用者参加であればハロウィンや夏祭りなどの交流を主とした行事がある。法人では防災活動を通して障害を持つ人の理解を深めている	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6 (100%)		各家庭に配布し、内容に変更があった際はすぐに職員、保護者と共有している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6 (100%)		年二回一週間続けて行っており、月1回の社員での避難訓練がある。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6 (100%)		・虐待防止委員会を設置している ・年一回虐待に関する研修を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6 (100%)		個別支援計画書に明記している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4(67%)	2(33%)	医師の指示書を提出している利用者がいない	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6 (100%)		手に取れる場所に保管しており、ヒヤリハットがあった場合には職員に周知している	